

第 1 学年 国語科学習指導案

単元名 小説を読んで自分の考えを持とう

—「少年の日の思い出」の登場人物を「どう思いますか」—

教材名 「少年の日の思い出」 ヘルマン・ヘッセ （光村図書 中学校 1 年）

朝日新聞 投書欄「どう思いますか」

1 単元について

《本単元で育成を目指す力》

C 読むこと オ

（文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること）

【新学習指導要領】

〔思考力・判断力・表現力等〕

C 読むこと オ

（文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること）

《本単元の学習課題》

「少年の日の思い出」の登場人物についての自分の考えを、描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比較して、投書への返書のように書く。

(1) 生徒観

4 月に実施した佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を観点別に見ると、本学級の生徒は「読むこと」の正答率が県の正答率を 11.3 ポイント下回っている。特に「文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる」設問（活用に関する問題）においては、23.9 ポイント下回っている。このことから、生徒が主体的に文章を読み進めることができる言語活動を設定し、理解した内容に基づいて様式や条件に応じて自分の考えを持つ力の育成を図ることをねらいとした単元を構想していく必要がある。

生徒はこれまで物語・小説を読む学習において、単元「題名を語る」（教材「花曇りの向こう」）では、登場人物の心情を読み取り、題名に込められた意味を考える学習を行った。さらに、単元「描写を語る」（教材「星の花が降るころに」）では、描写に着目して読み、登場人物の心情の変化を追う学習を経験している。生徒の単元の振り返りには、文章を深く読むことや自分の考えを表現することの楽しさ、また、友達の文章から学んだことを生かそうとしている記述が見られた。本単元では、生徒がこれまでの学びを生かし、描写に着目して物語や小説を深く読み、対話を通して自分の考えを持つ力の育成を図る。

(2) 教材観

生徒に主体的に学ばせ、自分の考えを持つ力を育成するための言語活動として、「投書への返書のように書く」ことを設定する。実生活と結びつく新聞の投書とそれに対する返書は、自分の考えを形成し、コンパクトに表現する学習材として活用する価値があると考えられる。本単元では主教材として、第 1 学年最後の文学的な文章である「少年の日の思い出」（小説）を取り扱う。本教材は、描写を基に登場人物の心情を追ひ、登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えを持つことに適した学習材である。

(3) 指導観

本単元では、資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえ、次の 3 点に重点をおいて単元を構想した。1 点目は、生徒が単元の学習を見通し、自らの学びを振り返って次につなげることができるようにすること、2 点目は、学習のモデルを提示すること、3 点目は、学習課題を「育成を図る資質・能力（指導事項）」、「言語活動」、「具体的な思考操作」の 3 フレーズで組み立てて提示することである。

自分の考えを形成するには、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事を考えたりして考えを再構築していく学習過程が必要である。そのため、新聞の投書欄を言語活動のモデルとし、返書を書くことで自分の考えをまとめさせるようにした。具体的には、単元の導入において、学習課題と学習計画を生徒に示し、単元の学習の見通しを持たせる。また、新聞の投書欄「どう思いますか」（朝日新聞）の投書と返書を提示し、自分の考えを表現することへの意欲を喚起する。生徒が学習課題を基に問いを持って読むことで自分の考えを形成し、さらに、他者の考えやその根拠を知ることで自分の考えを広げ、物語や小説を深く読む面白さに気付かせる。また、文脈上の意味を理解して語彙を広げたり、対話を通して自分の考えに合う語句を吟味したりすることで言語能力の育成を図る。

2 単元の目標

描写から分かる人物の考え方と自分の考え方を比較して、登場人物について自分の考えを持つことができる。

3 単元の言語活動

○投書への返書のように書く。

4 単元の評価規準**【現行の評価の観点による評価規準】**

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
① 学習計画を基に見通しを持ったり、自分の学習を振り返ったりしながら学習しようとしている。 ② 文章中の語句に着目し、自分の考えを表す語句を選んで返書を書こうとしている。	① 描写に注意して読み、登場人物について自分の考えを持っている。 ② 交流を通して自分のものの見方や考え方を広くしている。 【自分の考えの形成】	① 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文章の中の語彙について関心を持っている。

【新しい評価の観点による評価規準】

※新学習指導要領の評価の観点で示した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
① 事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【語彙】	① 描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比較して、自分の考えを確かなものにしている。	① 学習計画を基に見通しを持ち、自己の学習を振り返りながら学習しようとしている。

② 意見と根拠を適切に関係付けている。 【情報と情報との関係】	【考えの形成】 ② 返書を読み合い、自己の考えを再構築している。 【共有】	② 文章を読み、自分の考えを表す語句を選んで、自分の考えをまとめようとしている。
------------------------------------	---	--

※佐賀県教育センター「プロジェクト研究（中学校国語科教育研究委員会）」の試案である。

5 指導と評価の計画（全 6 時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔 〕 評価方法 【 〕
1	1 物語や小説の学習を振り返り、単元の見通しを持つ。 2 単元の学習課題を設定し、学習計画を確認する。 [学習課題]「少年の日の思い出」の登場人物についての自分の考えを、描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比較して、投書への返書のように書く。 3 朗読選抜チーム、語彙力アップチームを編成し、小説を深く読む準備をする（読みの構えを持つ）。	○既習単元における生徒の振り返りの記述を提示する。 ○先輩が書いた投書記事、投書欄「どう思いますか」を提示し、言語活動のイメージを持たせる。 ○学習課題と学習計画を提示し、単元の学習の見通しを持たせる。 ○4人グループの中で、1名を朗読選抜チーム、3名を語彙力アップチームとして学習の分担をさせる。 ○各チーム、グループごとに学習のてびき（学習の流れ、学習のコツ）を基に学習を進めさせる。	【関・意・態①】 【観察】 【学習計画表】 【言①】 【語彙集めシート、語彙力アップシート】
2	4 朗読選抜チームによる朗読を聞く（「少年の日の思い出」を読む）。 5 「少年の日の思い出」の登場人物を「どう思いますか」の投書モデル（A・B・C）を読む。 6 返書を書く投書モデルを選ぶ。	○読み方や意味が分かりにくい語句については、朗読選抜チームが作成した「語彙集めシート」参考にさせる。 ○生徒が自分の考えを持ちやすくするために【自分の考えと比べるポイント】に基づいてマーキングをしながら投書モデルを読ませる。 ○返書を書くことで解決したい問いを立てさせる。	【言①】 【観察】 【関・意・態①】 【振り返りの記述】

3	7 自分が選んだ投書へ返書を書く。 8 返書を書く過程で、「語彙集め」をする。	○返書で使いたい語句を集めるために、語彙力アップチームが作成した「語彙力アップシート（言葉の小劇場・類義語）」を活用し、語句の吟味をする。 ○返書を書く際に生徒用ルーブリック（自己評価表）を提示する。	【関・意・態②】 【読①】 【返書】
4 本時 ・ 5	9 自分の考えを表すための語句を適切に選んで返書を書き換える。 10 返書の内容を1分で伝える発表会の練習をする。	○生徒が書いた返書から、登場人物についての自分の考えを表す語彙を選び、学級全員の語彙一覧を提示する。 ○グループで返書を読む際に、引用した部分と考えの部分に線を引かせ、語句についての交流を促す。 ○返書の書き換えが終わったグループは、返書集の原稿を書かせる。 ○返書に書いた自分の考えとその根拠、自分の考えを表す語彙について1分間で説明するための練習をさせる。	【言①】 【読②】 【書き換えた返書】
6	11 「1分間で伝える発表会」を行う。 12 単元の学習を振り返る。	○2つのグループに分かれて発表会を行い、友達の発表から学んだことも含めて単元の学習を振り返らせる。 ○学習課題に関わって振り返りをさせる。	【関・意・態①】 【振り返りの記述】

6 本時の指導計画（4／6時間）

(1) 目標

自分の考えを表す語句を吟味して返書を書き換える。

(2) 本時の評価規準

事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文章の中の語彙について関心を持っている。

〔言語についての知識・理解・技能①〕

(3) 展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点	評価規準〔 〕・評価方法【 】
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習の見通しを持つ。	全	1-① 前時の生徒の振り返りの記述を提示する。 1-② 選んだ投書モデルによってグループを編成する。 2 単元の学習計画と本時の活動を確認させる。	
	本時のめあて 自分の考えを表す語句を吟味し、返書を書き換えよう。			

展 開	3 自分の考えを表す語彙の一覧を確認し、返書を書き換える見通しを持つ。	全	3 生徒が書いた返書から、登場人物についての自分の考えを表す語彙を選び、学級全員の語彙一覧を提示する。
	4 自分が書いた返書を読み、グループで吟味したい語句について、自分の考えを持つ。	個	4 -① 生徒が書いた返書に、必要に応じて線を引いておき、書き換える際の手引きとさせる。 4 -② 引用した部分と考えの部分に線を引かせ、前時に用いたループリックを基に自分の返書の自己評価をさせる。
展 開	5 自分の考えを表す語句を吟味して返書を書き換える。	G	5 -① グループのメンバーが書いた返書を比較しながら読むことができるように、1 枚の紙に集約して配付する。 5 -② グループで返書を読み、引用した部分と考えの部分に線を引かせ、語句についての交流を促す。 5 -③ 「自分の考えを表す語彙一覧」、「語彙力アップシート集」、国語辞典を基にして、自分の考えを表すための語句を適切に選んでいるか吟味させる。 【言①】事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、文章の中の語彙について関心を持っている。【書き換えた返書】
			5 -④ 返書の書き換えが終わったグループは、返書集の原稿の清書に取り掛からせる。
まとめ	6 本時の学習を振り返る。	個	6 本時の目標を踏まえて、学習の振り返りを書かせる。